

公表

保育所等訪問支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	保育所等訪問支援おりーぶる		
○保護者評価実施期間	2026年2月1日		2026年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	2026年3月1日		2025年3月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	2026年2月17日		2026年2月24日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	共通の課題やご家庭の情報を先生方と共有し、学校と事業所が同じ取り組みをすることで、学校・事業所の双方が保護者に対して行う説明に齟齬が無くなり、課題に向けて同じ方向で進めていることで安心と信頼感を得られている。	先生はお忙しい中、訪問が終わった後には必ず時間を取って下さり、その日の様子や課題に向けての話が出来た。保護者には出来るだけその日のうちに学校での様子や先生との話をお伝えし、月に1回報告書という形で提出している。担任の先生以外にも幅広くお話をすることで、お子さんの課題の共通理解が深まっていったり、同じ課題でも違った視点での考え方・捉え方があるため支援の幅が広がる。	今後、もし担当するお子さんが増えても、今の「一人ひとりに寄り添う丁寧さ」と「素早いレスポンス」が変わらないよう、スタッフ間での情報共有をよりスムーズにしていく。
2	「障がい福祉の経験」という言葉を、もっと具体的に「お子さんの味方になる」というニュアンスで表現する。	スタッフのこれまでの経験を活かし、お子さんの「困りごと」の背景にある理由と一緒に考え、先生や保護者の方と一緒に「今、何が出来るか」を前向きに話し合える雰囲気づくりを意識し誰か一人の意見に偏るのではなく、みんなでお子さんを支えていけるような橋渡し役を目指していく。	もっとお子さんの力になれるよう、新しい支援のヒントを学べる研修などに積極的に参加し、サポート力を高めていく。教育分野での専門性と福祉分野での専門性を融合させることで、より課題に向けての解決を深めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「人数が増えるのが不安」という正直な課題を、「もっと地域のお役に立ちたい」という前向きな意欲に繋げる。	現在は少人数のスタッフで動いているため、急なご相談や新しい依頼にすぐにお応えできない場合があることが心苦しい点である。保育所等訪問支援の認知度が低く、発信力が足りていない。	「おりーぶるにお願いしてよかった」というお声を一つずつ積み重ね、地域での信頼を広げていくことで、将来的にはもっと多くの声に応えられる体制を整えていきたいと考えている。